

# 家庭科の資質・能力の育成等について

議題  
(1)

家庭科の資質・能力の育成について

議題  
(2)

高校の科目構成の在り方について

議題  
(3)

高次の資質・能力の在り方について

議題  
(1)

# 家庭科の資質・能力の育成について



# 家庭科の資質・能力の育成に関する論点

※前回WGから再掲。追記箇所のみハイライト

## 1. 家庭科の領域に関する整理 【補足イメージ1：5ページ】

- 現状の課題等を踏まえつつ、**家庭科として必要な概念の習得に繋がるよう、現在の小・中・高等学校における系統性の在り方について、各領域の系統性を高める方向**で（1）及び（2）のように見直してはどうか。

### （1）新たな領域構成の考え方

- ・ 家庭科全体の系統性をより一層高めるため、以下の①、②に分類した上で、領域の構成を見直してはどうか。

#### ①生活の基盤に関する領域

- ・ 生活を営む主体となる「人」に関する指導領域  
→「**家族・家庭生活（仮称）**」
- ・ 生活を営む上での「営み方」（マネジメント）に関する指導領域  
→「**生活経営・消費生活（仮称）**」（※）

※ 同領域では、生涯の生活設計と消費生活を併せて実施。また、「消費者教育（金融経済教育含む）」は、生活を営む上での営み方（マネジメント）に関する指導領域に含まれるが、社会的関心が高く、現行の学習指導要領でも領域名として明記されていることから、現行の表記の在り方と同様に「生活経営」に併記。なお、「環境」については、領域横断的な事項であるため、同領域を中心として、他領域とも関連付けることし領域名には明記しないこととする。

また、名称の「生活経営」については、日本家庭科教育学会及び日本家政学会において、家庭経営や生活マネジメントを示すものとして広く使用されている。

#### ②生活を構成する要素に関する領域

- ・ 生活を形づくる重要要素である「衣食住」に関する指導領域  
→「**食生活（仮称）**」、「**衣生活（仮称）**」、「**住生活（仮称）**」

### （2）領域の配列の考え方

- ・ 「①生活の基盤に関する領域」の2領域の後に、「②生活を構成する要素に関する領域」の3領域としてはどうか。
- ・ 「①生活の基盤に関する領域」の中では、生活の主体となる「人」に関する指導領域である「家族・家庭生活（仮称）」を先に明記してはどうか。
- ・ 「②生活を構成する要素に関する領域」の中では、従前の順序性や食育の重要性の高まり等も踏まえ、食、衣、住の順としてはどうか。

## 2. 目標の整理 【補足イメージ2：6ページ】

- 現状等を踏まえつつ、**以下の方向で整理**することとしてはどうか。

- ・ 現行の学習指導要領における内容の系統性の明確化については一定の成果が上がっていることを踏まえ、目標においても、小・中・高等学校の系統性の**明確化を図るという方向性は引き続き**方向で検討してはどうか。

- ・ その際、**空間軸・時間軸の視点から、学習対象の広がり**を明示することとしてはどうか。

- ・ また、社会が複雑化・多様化する中で、実践を多角的に評価・改善することにより、**生活をよりよくするための適切な判断をする力について育成**する方向で検討してはどうか

- ・ 「**学びに向かう力・人間性等**」については、①当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度と②当該教科等の学習で育みたい情意・感性の構成で見直すこととしてはどうか。

### <参考>

空間軸の視点：小学校は、自分と家族・家庭、中学校は、家族・家庭や地域、高校は、家族・家庭、地域及び社会

時間軸の視点：小学校は、現在及びこれまでの生活、中学校は、これからの生活を展望した現在の生活、高校は、生涯を見通した生活

※ 各視点の学習対象は、当該学校種の主たるものを明記しており、必ずしも上記に記載されているものに限っているわけではないことに留意。



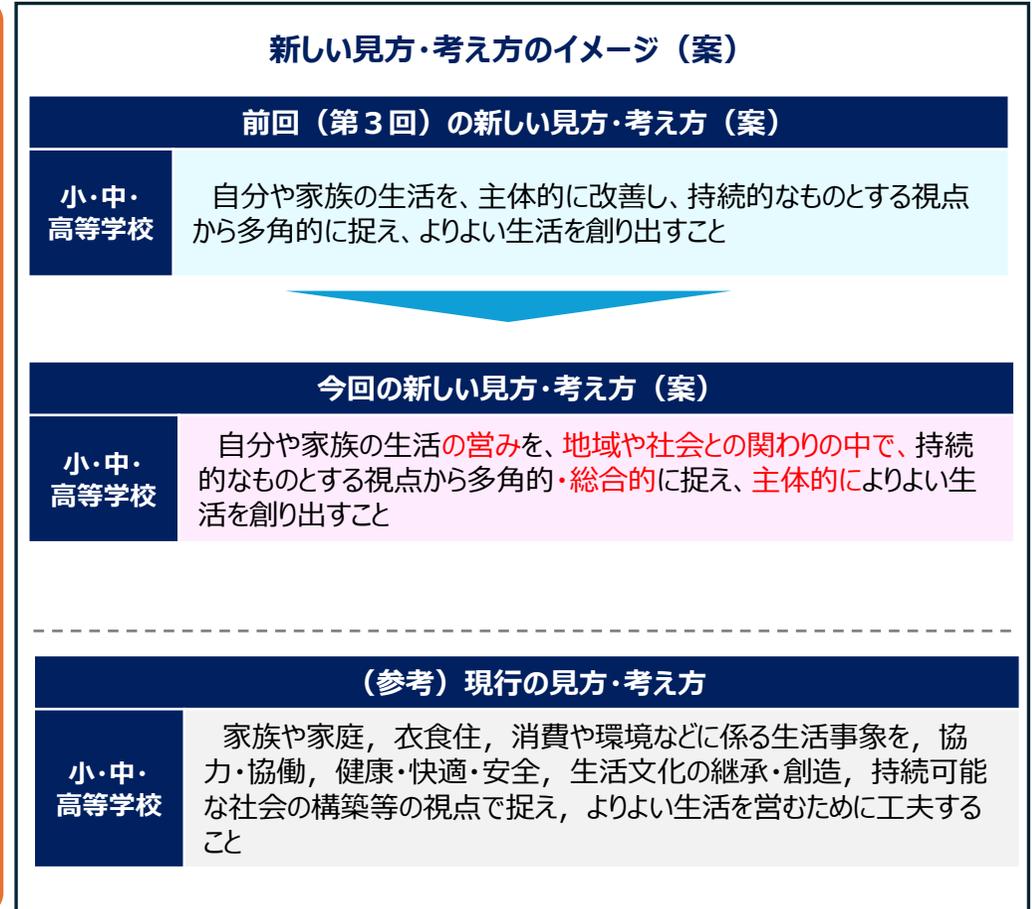
# 家庭科の資質・能力の育成に関する論点

※前回WGから再掲。追記箇所のみハイライト

## 3. 新しい「見方・考え方」の整理 【補足イメージ2：6ページ】

○ 現状等を踏まえつつ、**以下の方向で整理**することとしてはどうか。

- 新たな「見方・考え方」については、側面②の「各教科等を学ぶ本質的な意義」という観点を踏まえ、**家庭科の本質を示す事項に焦点化して端的に示す**とともに、**小・中・高等学校を通じて統一的に示す**方向で見直してはどうか。
- 一方、論点整理を踏まえ、従前の「見方・考え方」で示していた**側面①**「各教科等の学びの深まり」を促す事項（「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築等」など）については、**高次の資質・能力の中において構造化の中で内容に即してその要素を示す**方向としてはどうか。
- その上で、前回WGにおける議論も踏まえ、以下のとおり整理してはどうか
  - ✓ 当該教科を扱う事象や対象  
家庭科において、生活をどのように営んでいくのかについて明確にする観点から、「**自分や家族の生活の営み**」とする。
  - ✓ 当該教科固有の物事を捉える視点  
家庭生活が地域や社会との関連で成り立っていることを明確にする観点から、「**地域や社会との関わり**」を追記するとともに、多角的な視点だけでなく総合して捉えることが家庭科固有の視点として重要であることを踏まえて、「**多角的・総合的に捉え**」とする。
  - ✓ 当該教科固有の考え方や判断の仕方  
家庭科における考え方として、「**主体性を重視する観点から、「主体的に**」よりよい生活を創り出すこととする。



議題1  
議題2  
議題3

### 議題1 領域の整理、目標の在り方、見方・考え方について

- ✓ 前回WGでの議論を踏まえた修正案について、どのように考えるか。

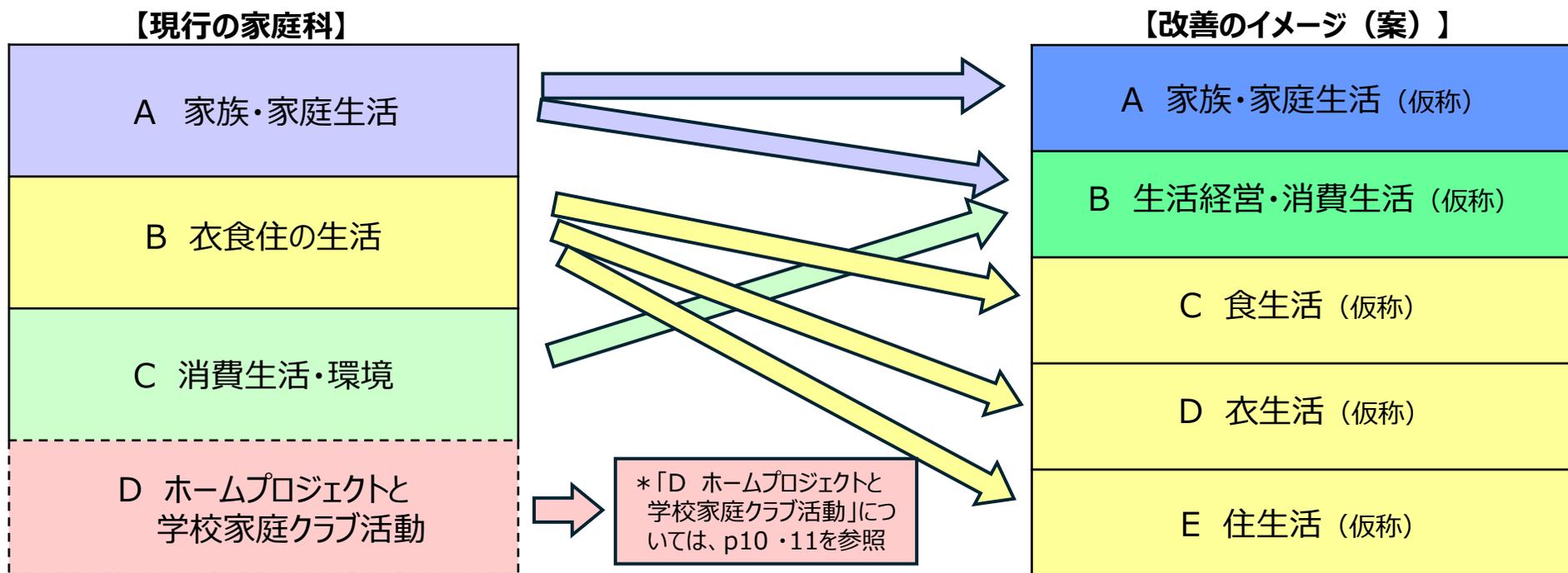
# 小・中・高等学校家庭科における領域の見直しのイメージ図（案）

補足イメージ1

※前回WGから再掲。追記修正箇所のみハイライト

現状の課題等を踏まえつつ、家庭科として必要な概念の習得に繋がるよう、現在の小・中・高等学校における系統性の在り方を、各領域の系統性を高める方向で以下のとおり見直してはどうか。

- ①「生活の基盤に関する領域」（生活を営む主体となる「人」に関する指導領域と生活を営む上での「営み方」（マネジメント）に関する指導領域）と「生活を構成する要素に関する領域」（衣食住に関する指導領域）の2つに分類
- ②生活を営む主体となる「人」に関する指導領域は「**家族・家庭生活（仮称）**」、生活を営む上での営み方（マネジメント）に関する指導領域は「**生活経営・消費生活（仮称）**」。なお、「消費者教育（金融経済教育含む）」は、現行の表記の在り方と同様に「生活経営」に併記
- ③「衣食住に関する指導領域」は、従前の順序性や食育の重要性の高まり等も踏まえ、「**食生活（仮称）**」「**衣生活（仮称）**」「**住生活（仮称）**」の順の3領域
- ④家庭科の領域については、「生活の基盤に関する領域」の2領域の後、「生活を構成する要素に関する領域」の3領域



\*小・中・高等学校の領域の正式な名称については、p26・27を参照

\*上記の図は、イメージであり各領域の分量・時数を示すものではない。

目標等：現行の学習指導要領の系統性の明確化を図るという方向性は引継ぎつつ、総則・評価特別部会の整理を踏まえ、構成を見直すとともに、空間軸・時間軸の視点から、学習対象の広がり<sup>を明示</sup>することや、社会が複雑化・多様化する中で、実践を多角的に評価・改善することにより、生活<sup>をよりよくする力を育成</sup>する視点を重視した見直しを行ってはどうか。

見方・考え方：「各教科等を学ぶ本質的な意義」という観点を踏まえ、家庭科の本質を示す事項に焦点化して端的に示すとともに、小・中・高等学校を通じて統一的に示す方向で見直してはどうか。

下線：現行からの変更。黄色ハイライト：前回WGを踏まえた修正。

## 目標・柱書

小学校	自分や家族・家庭の生活をよりよくしようと工夫する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
中学校	家族・家庭や地域における生活をよりよくしようと工夫し創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
高校	家族・家庭、地域及び社会における生活をよりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	自分や家族・家庭の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を多角的に評価・改善し、考えたことを表現するなど、日常生活の課題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活を大切に<sup>する心情を育む</sup>とともに、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。</li> <li>自分や家族・家庭の生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>
中学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生活の自立に向けて必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生活の自立に向けて課題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や地域の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>
高校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的・総合的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>

## 新しい「見方・考え方」

小・中・高等学校

自分や家族の生活の営み（当該教科で扱う事象や対象）を、地域や社会との関わりの中で、持続的なものとする視点から多角的・総合的（当該教科固有の物事を捉える視点）に捉え、主体的によりよい生活を創り出す（当該教科固有の考え方や判断の仕方）こと

# 【参考】家庭科の目標の在り方について <現行学習指導要領>

## 目標・柱書

青字：学校段階間の相違点

小学校	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
中学校	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
高校	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
家庭基礎	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
家庭総合	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	家族や家庭，衣食住，消費や環境などについて，日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，実践を評価・改善し，考えたことを表現するなど，課題を解決する力を養う。	家庭生活を大切にできる心情を育み，家族や地域の人々との関わりを考え，家族の一員として，生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
中学校	家族・家庭の機能について理解を深め，家族・家庭，衣食住，消費や環境などについて，生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなど，これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。	自分と家族，家庭生活と地域との関わりを考え，家族や地域の人々と協働し，よりよい生活の実現に向けて，生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
高校	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め，家族・家庭，衣食住，消費や環境などについて，生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。
家庭基礎	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
家庭総合	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活・環境などについて，生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに，それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど，生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，地域社会に参画しようとするとともに，生活文化を継承し，自分や家庭，地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

議題1

議題2

議題3

議題  
(2)

# 高校の科目構成の在り方について



# 高校の科目構成の在り方に関する論点

※前回WGから再掲。追記修正箇所のみハイライト

## 1. 「家庭基礎」「家庭総合」の科目の在り方

### (1) 「家庭基礎」「家庭総合」の趣旨・在り方について

【補足イメージ3：12ページ】

- 変化の激しい時代の中で、少子高齢化や地域のグローバル化など、生活を取り巻く環境は急速に変化している。  
こうした中で、
  - ・個々人が地域や社会を構成する一員として、自立したり、
  - ・地域や社会を構成する多様な人々と協力・協働したりしながら  
よりよい生活を営む必要性が増している。
- 家庭科においては、個人や家族のよりよい生活や持続可能な社会の形成に向けて
  - ・科学的な根拠に基づく理解や、
  - ・問題解決的な学習を通して、多様なライフスタイルに応じて自ら実践する力の育成
  - ・主体的に社会に参画する意識の向上
 がこれまで以上に求められている。

上記を踏まえ、各科目の趣旨等を明確化しつつ、右記のとおり整理する方向で検討してはどうか。

＜各科目の在り方の基本的な方向性（案）＞

○「家庭基礎」：自立した生活を営む主体として、社会に参画し、他者と協働しながら、よりよい生活を創り出すために必要な力を育成することを重視する観点から内容等を見直すこととしてはどうか

○「家庭総合」：自立した生活を営む主体として必要な力に加え、率先して家庭や地域の生活を支え、向上させる主体として、社会に参画し、多様な他者と協働しながら、よりよい生活を探究的に創り出すために必要な力を育成することを重視する観点から内容等を見直すこととしてはどうか

※ 家庭総合が目指す「率先して家庭や地域の生活を支え、向上させる主体」については、より広い視野をもち、地域の当事者と交わりながら、自らの実践に基づいて、家族以外の他者（第三者）のよりよい生活を創り出すための適切なサポートやアドバイスなどを行うことができる者をイメージ。



# 高校の科目構成の在り方に関する論点

## 2. 科目目標の在り方 【補足イメージ4：13ページ】

○ 「1. 「家庭基礎」「家庭総合」の科目の在り方」の各科目の在り方の基本的な方向性（案）を踏まえつつ、高校の教科目標と同様に**以下の方向で整理**することとしてはどうか。

・ 現行の学習指導要領における内容の系統性の明確化については一定の成果が上がっていることを踏まえ、目標においても、**小・中・高等学校の系統性の明確化を図るという方向性は引き続き**方向で検討してはどうか。

・ その際、**空間軸・時間軸の視点から、学習対象の広がり**を明示することとしてはどうか。特に**家庭総合**については、家庭基礎よりもさらに時間軸と空間軸を広げ、**自分の生涯や身の周りの地域にとどまらず、その先の世代の生活や環境まで視野を広げる**こととしてはどうか。

・ また、社会が複雑化・多様化する中で、適切な判断を通じて生活をよりよくすることができるようにするため、**実践を「多角的・総合的」に評価・改善する観点**を追記することとしてはどうか。

・ 「学びに向かう力・人間性等」については、①当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度と②当該教科等の学習で育みたい情意・感性の構成で見直すこととしてはどうか。

### <参考>

空間軸の視点：小学校…自分と家族・家庭  
中学校…家族・家庭や地域  
高等学校…家族・家庭、地域及び社会

時間軸の視点：小学校…現在及びこれまでの生活  
中学校…これからの生活を展望した現在の生活  
高等学校…生涯を見通した生活

※各視点の学習対象は、当該学校種の主たるものを明記しており、必ずしも上記に記載されているものに限っているわけではないことに留意。

## 3. 生活の課題と実践（仮称）の在り方

【補足イメージ5：16ページ】

### （1）現状

○ 社会や生活環境がめまぐるしく変化する中で、生活に直結した科目である家庭科は、実践的・体験的な活動を通じた問題解決的な学習が中核をなすものである。  
そうした学習が一定程度は、行われている実態があるものの、その趣旨や効果的な指導にかかる環境・条件整備が必ずしも十分であるとは言い難く、指導が十分に行われていないという実態がある。

○ 具体的には、特に、問題解決的な学習として単独の領域に位置付けられている「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」について、効果的な指導の実施に資する、指導上のノウハウや好事例等の情報が不十分であるなど、学校現場の教員が指導を行うにあたっての環境整備が十分とは言い難いことから、現状十分な指導が行われていない。

### （2）前回WGでの議論

○ このことを踏まえ、前回のWGでは、特に「家庭総合」の科目の趣旨が十分に学校現場に伝わっておらず、問題解決的な学習が十分に行われていないといった課題を踏まえ、実践的・体験的な活動を通じた問題解決的な学習の充実について、次のとおり議論が行われたところである。

- ✓ 小中学校との系統性の繋がりが図られるよう、**高等学校においても各領域に位置付ける**
- ✓ **内容の趣旨がより明確となるよう名称を見直す**
- ✓ 学校現場における指導上の負担等も考慮し、**授業の構想に資する優れた指導事例等の周知等**を国が主体で行う



# 高校の科目構成の在り方に関する論点

## (3) 整理の方向性

○ これらを踏まえ、「家庭基礎」「家庭総合」における「生活の課題と実践」(仮称)における「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)及び「協働探究(学校家庭クラブ活動)」(仮称)の扱い方について、以下の方向で整理することとしてはどうか。

① 「家庭基礎」「家庭総合」のいずれにおいても、「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)と「協働探究(学校家庭クラブ活動)」(仮称)を実施することとする。

② 実施する領域については、実践の対象となる主題を焦点化することで、生徒相互の学びが深まるよう5つの領域から主たる領域を選択しながら取り組むこととする。

※小・中学校と同様に、高等学校における学習の見通しを持てるようにするため、「A家族・家庭生活」(仮称)において、導入としての指導項目を新たに設け、その中で「生活の課題と実践」(仮称)に取り組む際の考え方などを示す。

※実社会につなげた実践とするため、主たる領域以外の他の領域の内容と適切に関連を図り実施する。

※領域の選択にあたっては、「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)と「協働探究(学校家庭クラブ活動)」(仮称)において同じ領域を選択してさらに深めて実践を実施したり、異なる領域を選択して実践の幅を広げながら実施することも考えられる。

※「家庭基礎」では、「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)で実践した領域の課題を、「協働探究(学校家庭クラブ活動)」(仮称)に発展させて実践につなげることで、両方の実践を実施しやすくしていくことなどが考えられる。

※「家庭総合」については、単位数が4単位であることを踏まえ、より充実した取組を行うものとする。

(長期的かつ継続的な実践が可能となるよう、例えば、年間指導計画の中に定期的な中間報告会等を位置付け探究の内容をブラッシュアップしたり、課題や方向性を見直しながら取り組むなどの工夫が考えられる。)

## (4) 具体の領域イメージ

○ このため、生徒の実態、学校や地域の実情に応じて、下のような様々な実施方法が考えられる。

※○：主たる領域、●：関連領域

<例1のイメージ(案)>

	A	B	C	D	E
「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)	○			●	
「協働探究(学校家庭クラブ活動)」(仮称)	○			●	

<例1>

「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)と「協働探究(学校家庭クラブ活動)」(仮称)のいずれにおいても選択した主たる領域と関連領域が同じパターンの場合

<例2のイメージ(案)>

	A	B	C	D	E
「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)	○		●		
「協働探究(学校家庭クラブ活動)」(仮称)		●	○		

<例2>

「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)と「協働探究(学校家庭クラブ活動)」(仮称)のいずれにおいても選択した主たる領域と関連領域が異なるパターンの場合

<例3のイメージ(案)>

	A	B	C	D	E
「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)	○	●		○	●
「協働探究(学校家庭クラブ活動)」(仮称)		○			●

<例3>

「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)では異なる領域で複数回実施し、「協働探究(学校家庭クラブ活動)」(仮称)では「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)と異なる領域で実施するパターンの場合

※上記の例以外の実施方法も考えられる

### 議題2 論点1 「家庭基礎」「家庭総合」の科目の在り方

✓ 「家庭基礎」「家庭総合」の趣旨・在り方について、前回WGでの議論を踏まえた修正案について、どのように考えるか。

### 論点2 科目目標の在り方について

✓ 科目目標の在り方について、論点1の方向性を踏まえつつ、科目目標の在り方についてどのように考えるか

### 論点3 生活の課題と実践(仮称)の在り方について

✓ 「個人探究(ホームプロジェクト)」(仮称)及び「協働探究(学校家庭クラブ活動)」(仮称)の具体的な在り方について、どのように整理するのか

議題1

議題2

議題3

変化の激しい時代の中で、少子高齢化や地域のグローバル化など、生活を取り巻く環境は急速に変化しており、個々人が地域や社会を構成する一員として、自立したり、地域や社会を構成する多様な人々と協力・協働したりしながらよりよい生活を営む必要性が増している。

今後、個人や家族のよりよい生活や持続可能な社会の形成に向けて、科学的な根拠に基づく理解や、探究的で深い学びを実現する問題解決的な学習を通して、多様なライフスタイルに応じて実践する力の育成がこれまで以上に求められる中、各科目の趣旨等を明確化しつつ、以下のとおり整理する方向で検討してはどうか。

## 現行

### 現・家庭基礎

実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する

- ・基礎的な理解
- ・実践的・体験的な活動
- ・技能を身に付ける
- ・問題解決的な学び

#### 【課題】

- ・内容が多岐にわたるため、問題解決的な学びが限定的

### 現・家庭総合

実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する

- ・科学的な理解
- ・実践的・体験的な活動
- ・技能を体験的・総合的に身に付ける
- ・問題解決的な学び
- ・生活文化の継承

#### 【課題】

- ・「家庭基礎」との差異が分かりにくい

## 改善案

※前回WGから再掲。追記修正箇所のみハイライト

### 新・家庭基礎

・自立した生活を営む主体として、社会に参画し、他者と協働しながら、よりよい生活を創り出すために必要な力を育成する

- 小・中学校からの学びの系統性を重視しつつ、科学的な根拠に裏付けられた理解と、実験・実習等の実践的・体験的な活動を通して、質の高い学びへと繋げていく（実践的・体験的な活動を通じた学習の着実な実施）
- 自立した生活を営むために、主体的に生活を創り出す力の育成に必要な内容を扱う  
(イメージ)
  - ・食生活の内容は、小・中学校の食生活に関する知識及び技能を総合的に活用し、例えば、科学的な根拠に裏付けられた食品の特質の理解を基に、ライフステージに応じた献立を整える力を育成する
  - ・生涯の生活設計や生活における経済の計画等の内容を充実させ、自立する力の育成に繋げる

### 新・家庭総合

・自立した生活を営む主体として必要な力に加え、率先して家庭や地域の生活を支え、向上させる主体として、社会に参画し、多様な他者と協働しながら、よりよい生活を探究的に創り出すために必要な力を育成する

- 科学的な根拠に裏付けられた理論的理解と、実験・実習等の実践的・体験的な活動を通じた学びとを往還させることで、より質が高い探究的で深い学びへと繋げていく（実践的・体験的な活動を通じた問題解決的な学習をより充実）
- 広い視野で生活を捉え、地域や社会の関わりの中で主体的に多様な人々と協働しながら、よりよい生活を探究的に創り出す力の育成に必要な内容を扱う
- 柔軟な教育課程の編成を促進するための課題の改善（隔年での実施や第1学年から第3学年まで連続して履修する形を認める見直し）
- 次世代への継承を重視する観点から、生活文化の継承・創造に関する内容を充実  
(イメージ)
  - ・食生活の内容は、「家庭基礎」の内容に加え、例えば、健康への配慮など個々の状況に応じた献立を整える力を育成する
  - ・高齢者の福祉や共生社会等の内容について、例えば、高齢者が安心・安全に暮らせる地域社会を率先して支え、向上させる力を育成するために、認知症などの学習を基にして、地域の当事者と交わりながら課題解決に向けて考える学習活動

高校の教科目標と同様に、現行の学習指導要領の系統性の明確化を図るという方向性は引継ぎつつ、総則・評価特別部会の整理を踏まえ、構成を見直すとともに、空間軸・時間軸の視点から、学習対象の広がりや、社会が複雑化・多様化する中で、実践を多角的に評価・改善することにより、生活をよりよくするための適切な判断をする力を育成する視点を重視した見直しを行っていただく。

その際、**各科目の在り方の基本的な方向性（案）**を踏まえ見直しを行っていただく。

（参考）**各科目の在り方の基本的な方向性（案）**

- ・家庭基礎：自立した生活を営む主体として、社会に参画し、他者と協働しながら、よりよい生活を創り出すために必要な力を育成
- ・家庭総合：自立した生活を営む主体として必要な力に加え、率先して家庭や地域の生活を支え、向上させる主体として、社会に参画し、多様な他者と協働しながら、よりよい生活を探究的に創り出すために必要な力を育成

下線：現行からの変更。黄色ハイライト：前回WGを踏まえた修正、新たな提示事項。青字：教科・科目間の相違点

## 目標・柱書

高校	家族・家庭、地域及び社会における生活をよりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを旨す。
家庭基礎	家族・家庭、地域及び社会における生活をよりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを旨す。
家庭総合	家族・家庭、地域及び社会における生活を <b>率先して</b> よりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを旨す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的・総合的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>・家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>
家庭基礎	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的・総合的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>・家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>
家庭総合	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に <b>率先して</b> 営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を <b>深めながら</b> 多角的・総合的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に<b>率先して</b>創造しようとする実践的な態度を養う。</li> <li>・家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。</li> </ul>

# 【参考】家庭科の目標の在り方について <現行学習指導要領>

## 目標・柱書

青字：教科・科目間の相違点

高校	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、 <b>よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する</b> 資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
家庭基礎	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、 <b>よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する</b> 資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
家庭総合	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、 <b>よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する</b> 資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高校	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、 <b>生活を主体的に営むために必要な理解</b> を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における <b>生活</b> の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを <b>根拠に基づいて</b> 論理的に表現するなど、 <b>生涯を見通して生活</b> の課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。
家庭基礎	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な <b>基礎的な</b> 理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを <b>根拠に基づいて</b> 論理的に表現するなど、 <b>生涯を見通して</b> 課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
家庭総合	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な <b>科学的な</b> 理解を図るとともに、それらに係る技能を <b>体験的・総合的に</b> 身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを <b>科学的な根拠に基づいて</b> 論理的に表現するなど、 <b>生涯を見通して</b> 課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、 <b>生活文化を継承し</b> 、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

議題1

議題2

議題3



「家庭総合」「家庭基礎」における問題解決的な学習である「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の在り方については、第3回のWGにおいて、各領域においてその指導項目と関連付けるとともに、探究的な学びの趣旨がより明確となる方向で名称を変更する方向性で議論を行ったことを踏まえ、新しい「生活の課題と実践」（仮称）の在り方を次のとおり整理することとしてはどうか。

## 【現行の「家庭総合」、「家庭基礎」】

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉
- B 衣食住の生活の科学と文化
- C 持続可能な消費生活・環境
- D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

### <現行の取扱い>

「家庭総合」「家庭基礎」は以下のとおり「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」の内容が明記されている

- ① 意義と実践方法についての理解
  - ② 生活上の課題の設定、解決方法を考察、実践
- ※「家庭総合」「家庭基礎」の両方とも同様に明記

## 【改善のイメージ（案）】

- 「A 家族・家庭生活」（仮称）
  - 「B 生活経営・消費生活」（仮称）
  - 「C 食生活」（仮称）
  - 「D 衣生活」（仮称）
  - 「E 住生活」（仮称）
- 生活の課題と実践（仮称）
- ・個人探究（ホームプロジェクト）（仮称）
  - ・協働探究（学校家庭クラブ活動）（仮称）

### <改善の方向性（案）>

- ① 「家庭基礎」「家庭総合」のいずれにおいても、「個人探究（ホームプロジェクト）（仮称）」と「協働探究（学校家庭クラブ活動）（仮称）」を実施
- ② 実施する領域については、実践の対象となる主題を焦点化することで、生徒相互の学びが深まるよう 5つの領域から主たる領域を選択しながら取り組む

（参考）高等学校学習指導要領第2章第9節家庭科（平成30年告示）

### 第2 家庭総合

#### 2 内容

#### D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

ア ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実践方法について理解すること。

イ 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践すること。

※家庭基礎も同様の規定

※小・中学校と同様に、高等学校における学習の見直しを持てるようにするため、「A家族・家庭生活」（仮称）において、導入としての指導項目を新たに設け、その中で「生活の課題と実践」（仮称）に取り組む際の考え方などを示す。

※実社会につなげた実践とするため、主たる領域以外の他の領域の内容と適切に関連を図り実施する。

※領域の選択にあたっては、「個人探究（ホームプロジェクト）」（仮称）と「協働探究（学校家庭クラブ活動）」（仮称）において同じ領域を選択してさらに深めて実践を実施したり、異なる領域を選択して実践の幅を広げながら実施することも考えられる。

※「家庭基礎」では、「個人探究（ホームプロジェクト）」（仮称）で実践した領域の課題を、「協働探究（学校家庭クラブ活動）」（仮称）に発展させて実践につなげることで、両方の実践を実施しやすくしていくことなどが考えられる。

※「家庭総合」については、単位数が4単位であることを踏まえ、より充実した取組を行うものとする。（長期的かつ継続的な実践が可能となるよう、例えば、年間指導計画の中に定期的な中間報告会等を位置付け探究の内容をブラッシュアップしたり、課題や方向性を見直ししながら取り組むなどの工夫が考えられる。）

議題  
(3)

# 高次の資質・能力の在り方について



# 高次の資質・能力の在り方に関する論点

※前回WGから再掲。追記修正箇所のみハイライト

## 1. 小・中学校の高次の資質・能力について

【補足イメージ6：19、20ページ】

- 現状等を踏まえつつ、家庭科においては**以下の方針で高次の資質・能力を整理**することとしてはどうか。
- ・ 家庭科として、児童生徒が獲得してほしい「**知識及び技能に関する統合的な理解**」や「**思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮**」として、「**深い学び**」を実現する題材づくりのイメージを教師が持てるようにするために、**各領域ごとに構成**した上で、以下とおり整理することとしてはどうか。
  - ✓ 「**知識及び技能に関する統合的な理解**」は、各領域の学習内容における知識及び技能を習得した児童生徒が、**それらを生活の中で生かす具体的な姿**（例えば、中学校の「C食生活」では、「自分の目的や希望に応じて食生活をよりよくできる」など）を明記する方向で見直してはどうか
  - ✓ 「**思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮**」は、各領域の学習内容における思考力、判断力、表現力等が育成された児童生徒が、**実生活の場面において、課題解決を通して自分の生活を実践する具体的な姿**（例えば、中学校の「B生活経営・消費生活」では、「自分の生活上の課題を見いだし、自立に向けてよりよい生活を工夫」など）を明記する方向で見直してはどうか
- ・ その上で、**以上の整理や前回WGにおける議論も踏まえ、p19、20のとおり修正。**

## 2. 高校の高次の資質・能力について

【補足イメージ7：21～24ページ】

- 議題2「1. 「家庭基礎」「家庭総合」の科目の在り方」の各科目の在り方の基本的な方向性（案）を踏まえつつ、小・中学校と**同様の方針で高次の資質・能力を整理**することとしてはどうか。

（再掲）

＜各科目の在り方の基本的な方向性（案）＞

- 「家庭基礎」：**自立した生活を営む主体として**、社会に参画し、他者と協働しながら、**よりよい生活を創り出すために必要な力**を育成することを重視する観点から内容等を見直すこととしてはどうか
- 「家庭総合」：**自立した生活を営む主体として必要な力に加え、率先して家庭や地域の生活を支え、向上させる主体として**、社会に参画し、多様な他者と協働しながら、**よりよい生活を探究的に創り出すために必要な力**を育成することを重視する観点から内容等を見直すこととしてはどうか

### 議題3 論点1 小・中学校の高次の資質・能力の在り方について

- ✓ 小・中学校の高次の資質・能力について、**前回WGでの議論を踏まえた修正案**について、どのように考えるか。

### 論点2 高校の高次の資質・能力の在り方について

- ✓ 高等学校の高次の資質・能力について、**各科目の在り方の基本的な方向性（案）**を踏まえつつ、小・中学校と同様の方針で整理した内容について、どのように考えるか

# 家庭科の高次の資質・能力のイメージ① (小・中学校：家族・家庭生活、生活経営・消費生活) 補足イメージ6

※学習内容については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる  
 ※本表は検討の便宜上の表現であり、実際には、区分を横断する学習内容も存在することに留意

※ハイライトは前回WGからの修正箇所

領域		A 家族・家庭生活 (仮称)		B 生活経営・消費生活 (仮称)	
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
小学校	高次の資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が家族の一員であることを自覚し、生活の中で自分にできることを考え取り組むことで、家庭生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族の一員として、家族や地域の人々と協力し合う中で自分の生活上の課題を見だし、よりよい生活に向けて工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活を営む上で必要な資源を効果的に活用することで、自分の生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族の一員として、生活を営む上で必要な資源を効果的に活用しながら、自分の生活上の課題を見だし、よりよい生活に向けて工夫することができる。</li> </ul>
	内容項目例	<b>知識及び技能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の成長の自覚</li> <li>家庭生活と家族の大切さ</li> <li>家族との触れ合いや団らん</li> <li>地域の人々との協力</li> </ul>	<b>思考力、判断力、表現力等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫すること</li> </ul>	<b>知識及び技能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活を支える仕事と生活時間の有効な使い方</li> <li>買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さと計画的な使い方、身近な物の選び方、買い方、購入するために必要な情報の収集・整理</li> <li>自分の生活と身近な環境との関わり、環境に配慮した物の使い方</li> </ul>	<b>思考力、判断力、表現力等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の仕事の計画を考え、工夫すること</li> <li>購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫すること</li> <li>環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること</li> </ul>
中学校	高次の資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が家族や地域を支える一員であることを自覚し、生活の中で自分にできることを考え取り組むことで、家庭生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や地域の人々と協力・協働する中で自分の生活上の課題を見だし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、自分の生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、自分の生活上の課題を見だし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。</li> </ul>
	内容項目例	<b>知識及び技能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の成長と家族や家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働</li> <li>幼児の発達と生活の特徴、幼児との関わり方</li> <li>地域の人々との関わり方</li> </ul>	<b>思考力、判断力、表現力等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること</li> </ul>	<b>知識及び技能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族の互いの立場や役割</li> <li>購入方法や支払いの特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理</li> <li>消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響</li> </ul>	<b>思考力、判断力、表現力等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること</li> <li>身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動について考え、工夫すること</li> </ul>

議題1  
議題2  
議題3

※学習内容については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる  
 ※本表は検討の便宜上の表現であり、実際には、区分を横断する学習内容も存在することに留意

※ハイライトは前回WGからの修正箇所

領域	C 食生活 (仮称)		D 衣生活 (仮称)		E 住生活 (仮称)		
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	
小学校	高次の資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養バランスを考えた食事を楽しむことで、自分の食生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の食生活上の課題を見だし、健康でよりよい食生活に向けて工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服を手入れしながら着用したり、製作を楽しんだりすることで、自分の衣生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の衣生活上の課題を見だし、健康・快適でよりよい衣生活に向けて工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節の変化を感じつつ、日頃から住まいを整えておくことで、自分の住生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の住生活上の課題を見だし、快適でよりよい住生活を工夫することができる。</li> </ul>
	内容項目例	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識及び技能</li> <li>食事の役割と食事の仕方</li> <li>安全や衛生的な調理(ゆでる・いためる)の仕方と調理計画、伝統的な日常食の調理</li> <li>栄養バランスを考えた1食分の献立の作成方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力、判断力、表現力等</li> <li>楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、工夫すること</li> <li>おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫すること</li> <li>1食分の献立についての栄養のバランスを考え、工夫すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識及び技能</li> <li>衣服の主な働き、日常着の快適な着方</li> <li>日常着の手入れ</li> <li>製作に必要な材料や手順と製作計画、目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力、判断力、表現力等</li> <li>日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること</li> <li>生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画を考え、工夫すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識及び技能</li> <li>住まいの主な働き、季節の変化に合わせた住まい方、住まいの整理・整頓や清掃の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力、判断力、表現力等</li> <li>季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫すること</li> </ul>
中学校	高次の資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、自分の目的や希望に応じて食生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の食生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい食生活を工夫し、創造することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服を選択し手入れしながら計画的に着用することや、製作した物が生活に役立つこととともに、自分の衣生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の衣生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・快適でよりよい衣生活を工夫し、創造することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や家族が安全・快適に過ごせるよう日頃から住まいを整えておくことで、自分や家族の住生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の住生活上の課題を見だし、自立に向けて安全・快適でよりよい住生活を工夫し、創造することができる。</li> </ul>
	内容項目例	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識及び技能</li> <li>中学生の栄養の特徴と健康によい食習慣</li> <li>中学生の1日分の献立作成の方法</li> <li>食品の選択や保存、調理(焼く、煮る、蒸す、生肉・生魚の扱い)の仕方と調理計画、地域の食文化と和食の調理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力、判断力、表現力等</li> <li>健康によい食習慣について考え、工夫すること</li> <li>中学生の1日分の献立について考え、工夫すること</li> <li>日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識及び技能</li> <li>衣服と社会生活との関わり、衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用、材料や状態に応じた日常着の手入れ</li> <li>製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力、判断力、表現力等</li> <li>衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること</li> <li>資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識及び技能</li> <li>家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力、判断力、表現力等</li> <li>家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること</li> </ul>

※学習内容については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる  
 ※本表は検討の便宜上の表現であり、実際には、区分を横断する学習内容も存在することに留意

領域		A 家族・家庭生活 (仮称)		B 生活経営・消費生活 (仮称)	
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	高次の資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立した生活を営む主体として、生活の中で自分にできることを考え取り組むことで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の課題を見いだし、自立した生活を営む主体として、よりよい生活を創造することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立した生活を営む主体として、生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、生涯にわたって生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、家庭や地域及び社会の生活上の課題を見いだし、適切に意思決定し、自立した生活を営む主体として、よりよい生活を創造することができる。</li> </ul>
	家庭基礎 内容項目例	<b>知識及び技能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>人の一生、自己と他者、社会との関わりと様々な生き方</li> <li>生涯発達の視点からの青年期の課題、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わり</li> <li>乳幼児期の心身の発達、乳幼児期の生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能</li> <li>高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護、生活支援に関する基礎的な技能</li> <li>生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援</li> </ul>	<b>思考力、判断力、表現力等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく行動</li> <li>子供を生み育てることの意義、子供の発達のための親や家族及び地域や社会の果たす役割</li> <li>家族や地域及び社会の果たす役割の重要性</li> <li>家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもってともに支え合って生活することの重要性</li> </ul>	<b>知識及び技能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理</li> <li>生涯を見通した生活課題に対応した意思決定</li> <li>家族・家庭の機能と家族関係</li> <li>家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理</li> <li>消費者の権利と責任、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定、契約の重要性、消費者保護の仕組み、生活情報の適切な収集・整理</li> <li>生活と環境との関わり、持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義</li> </ul>	<b>思考力、判断力、表現力等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活、生活設計</li> <li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性</li> <li>責任ある消費</li> <li>安心で安全な生活と消費</li> </ul>

※学習内容については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる  
 ※本表は検討の便宜上の表現であり、実際には、区分を横断する学習内容も存在することに留意

領域		C 食生活（仮称）		D 衣生活（仮称）		E 住生活（仮称）	
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	高次の資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立した生活を営む主体として、科学的な根拠を基に、健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、ライフステージに応じて食生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や家族及び地域における食生活上の課題を見だし、自立した生活を営む主体として、生涯にわたって健康・安全で食文化を大切にしたいよき食生活を創造することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立した生活を営む主体として、科学的な根拠を基に、健康で快適な衣生活や日本の衣文化の大切さとともに、ライフステージに応じて衣生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や家族及び地域における衣生活上の課題を見だし、自立した生活を営む主体として、生涯にわたって健康・快適で衣文化を大切にしたいよき衣生活を創造することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立した生活を営む主体として科学的な根拠を基に、健康・快適・安全な住生活や日本の住文化の大切さとともに、ライフステージに応じて住生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や家族及び地域における住生活上の課題を見だし、自立した生活を営む主体として、生涯にわたって健康・快適・安全で住文化を大切にしたいよき住生活を創造することができる。</li> </ul>
	家庭基礎 内容項目例	<p>知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライフステージに応じた栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能</li> <li>おいしさの構成要素、食品の調理上の性質、食品衛生、目的に応じた調理に必要な技能</li> </ul>	<p>思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活</li> </ul>	<p>知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理</li> <li>材料、被服構成、被服衛生、被服の計画・管理に必要な技能</li> </ul>	<p>思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理、目的に応じた着装</li> </ul>	<p>知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能、適切な住居の計画・管理に必要な技能</li> </ul>	<p>思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わり、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境の工夫</li> </ul>

※学習内容については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる  
 ※本表は検討の便宜上の表現であり、実際には、区分を横断する学習内容も存在することに留意

領域		A 家族・家庭生活 (仮称)		B 生活経営・消費生活 (仮称)	
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
高次の資質・能力	内容項目例	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、生活の中で、自分にできることを考え取り組むことで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の課題を見いだし、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、よりよい生活を創造することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、家庭や地域及び社会の生活上の課題を見いだし、適切に意思決定し、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、よりよい生活を創造することができる。</li> </ul>
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	家庭総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の一生、自己と他者、社会との関わりと様々な生き方</li> <li>生涯発達の見点からの各ライフステージの特徴と課題、青年期の課題、意思決定の重要性</li> <li>家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題</li> <li>乳幼児期の心身の発達、乳幼児期の生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援、子供の発達に応じて適切に関わるための技能</li> <li>子供の福祉</li> <li>高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能</li> <li>高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題、高齢者福祉</li> <li>生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援</li> <li>家庭と地域との関わり、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく責任のある行動</li> <li>子供を生み育てることの意義、保育の重要性、子供の発達のための親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性、子供との適切な関わり方</li> <li>高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方</li> <li>家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯を見通した生活課題に対応した意思決定</li> <li>生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源、情報の収集・整理</li> <li>家計の管理、生活における経済と社会との関わり</li> <li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方、情報の収集・整理</li> <li>消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定、責任ある消費、生活情報の収集・整理</li> <li>消費者の権利と責任、消費者問題や消費者の自立と支援、契約の重要性、消費者保護の仕組み</li> <li>生活と環境との関わり、持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活、生活設計</li> <li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性</li> <li>責任ある消費行動</li> <li>安全で安心な生活と消費</li> </ul>

※学習内容については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる  
 ※本表は検討の便宜上の表現であり、実際には、区分を横断する学習内容も存在することに留意

領域		C 食生活（仮称）		D 衣生活（仮称）		E 住生活（仮称）	
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	家庭総合	高次の資質・能力		高次の資質・能力		高次の資質・能力	
	内容項目例	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域の食生活を率先して支え、向上させる主体として、健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、家族や地域の人々のライフステージに応じて食生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や家族や地域における食生活上の課題を見だし、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、食文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・安全でよりよい食生活を創造することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域の衣生活を率先して支え、向上させる主体として、健康で快適な衣生活や日本の衣文化の大切さとともに、家庭や地域の人々のライフステージに応じて衣生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や家族や地域における衣生活上の課題を見だし、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、衣文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・快適でよりよい衣生活を創造することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域の住生活を率先して支え、向上させる主体として、健康・快適・安全な住生活や日本の住文化の大切さとともに家庭や地域の人々のライフステージに応じて住生活をよりよくできることについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や家族や地域における住生活上の課題を見だし、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、住文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・快適・安全でよりよい住生活を創造することができる。</li> </ul>
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化、食と人との関わり</li> <li>ライフステージの特徴や課題、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活の計画・管理に必要な技能</li> <li>おいしさの構成要素、食品の調理上の性質、食品の衛生、目的に応じた調理に必要な技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造、日本の食文化の継承・創造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化、被服と人との関わり</li> <li>ライフステージの特徴や課題、身体特性と被服の機能及び着装、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の管理・計画に必要な情報の収集・整理</li> <li>被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生、被服管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装、日本の衣文化の継承・創造、目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装、日本の衣文化の継承・創造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化、住まいと人との関わり</li> <li>ライフステージの特徴や課題、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能、住生活の計画・管理に必要な機能</li> <li>家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報の収集・整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・創造</li> </ul>

# 參考資料

# 現行学習指導要領における家庭科の内容項目一覧（小・中学校）

## 小学校

### 第5・6学年

#### A 家族・家庭生活

- (1) 自分の成長と家族・家庭生活
- (2) 家庭生活と仕事
- (3) 家族や地域の人々との関わり
- (4) 家族・家庭生活についての課題と実践

#### B 衣食住の生活

- (1) 食事の役割
- (2) 調理の基礎
- (3) 栄養を考えた食事
- (4) 衣服の着用と手入れ
- (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
- (6) 快適な住まい方

#### C 消費生活・環境

- (1) 物や金銭の使い方と買物
- (2) 環境に配慮した生活

## 中学校

### 家庭分野

#### A 家族・家庭生活

- (1) 自分の成長と家族・家庭生活
- (2) 幼児の生活と家族
- (3) 家族・家庭や地域との関わり
- (4) 家族・家庭生活についての課題と実践

#### B 衣食住の生活

- (1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴
- (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事
- (3) 日常食の調理と地域の食文化
- (4) 衣服の選択と手入れ
- (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
- (6) 住居の機能と安全な住まい方
- (7) 衣食住の生活についての課題と実践

#### C 消費生活・環境

- (1) 金銭の管理と購入
- (2) 消費者の権利と責任
- (3) 消費生活・環境についての課題と実践

# 現行学習指導要領における家庭科の内容項目一覧（高等学校）

## 高等学校

### 家庭基礎

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉**
  - (1) 生涯の生活設計
  - (2) 青年期の自立と家族・家庭
  - (3) 子供の生活と保育
  - (4) 高齢期の生活と福祉
  - (5) 共生社会と福祉
  
- B 衣食住の生活の自立と設計**
  - (1) 食生活と健康
  - (2) 衣生活と健康
  - (3) 住生活と住環境
  
- C 持続可能な消費生活・環境**
  - (1) 生活における経済の計画
  - (2) 消費行動と意思決定
  - (3) 持続可能なライフスタイルと環境
  
- D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動**

### 家庭総合

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉**
  - (1) 生涯の生活設計
  - (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会
  - (3) 子供との関わりと保育・福祉
  - (4) 高齢者との関わりと福祉
  - (5) 共生社会と福祉
  
- B 衣食住の生活の科学と文化**
  - (1) 食生活の科学と文化
  - (2) 衣生活の科学と文化
  - (3) 住生活の科学と文化
  
- C 持続可能な消費生活・環境**
  - (1) 生活における経済の計画
  - (2) 消費行動と意思決定
  - (3) 持続可能なライフスタイルと環境
  
- D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動**